

# 阿蘇の山上は神と仏が共存する、 古からの聖なる場所。

世界中から観光客が訪れる阿蘇中岳火口。たびたび噴火を起こす阿蘇火山は古くから自然神として崇められてきました。阿蘇神社は古代より火口を阿蘇の開拓神・健甕龍命（タケイワタツノミコト）として祀り、国家祈祷の対象とされていました。一方で火山信仰は仏教とも結びつき、火口を十一面観音菩薩（健甕龍命の化身）として信仰されました。一説には西暦700年代から火口周辺は霊場となって僧侶や山伏の拠点となる37坊51庵が建ち並び、山岳仏教の一大拠点として栄えました。神と仏が共存したかたちは今なお継続され、火山鎮静への祈りは一日も途切れず今を迎えています。



もうもうと煙が立ち込める壮大な阿蘇火山。火口へ登山することを御池参りといい、信仰の対象となっています。

## 壮大で美しい景観が広がる阿蘇山上エリア - 中岳火口・草千里ヶ浜・砂千里ヶ浜 -

阿蘇のシンボルとも言える、中岳火口と草千里ヶ浜。まるで火星のような景観が広がる砂千里ヶ浜。壮大で美しい景観が広がる3大スポットはエリアが固まっているので、あわせて訪れてみましょう。気軽に直径600mの活動中の火口を見学することができます。



阿蘇山公園有料道路を使うと火口近くまで車でアクセスできます。



草千里ヶ浜では乗馬体験も可能。



火山灰で覆われた砂浜が広がる砂千里ヶ浜では、火山ならではの荒涼とした景色を見ることができます。

**阿蘇中岳火口見学・砂千里ヶ浜**  
阿蘇山公園有料道路の開放時間  
【3/20～10/31】8:30～18:00（17:30ゲート閉門）  
【11/1～11/30】8:30～17:30（17:00ゲート閉門）  
【12/1～3/19】9:00～17:00（16:30ゲート閉門）  
※年中無休、火山活動等により立入規制がかかる場合があります  
単車 200円、軽自動車 600円、普通車 800円、マイクロバス 2,500円、中型バス 3,000円

**阿蘇山上広場**  
住所／阿蘇市黒川 808 P／あり  
**草千里ヶ浜**（阿蘇火山博物館・阿蘇山ビジターセンター）  
住所／阿蘇市草千里ヶ浜 P／あり  
※単車 200円、乗用車 500円、マイクロバス 1,000円、大型バス 2,000円  
※上記料金で当日に限り両駐車場を1回ずつご利用できます

火口見学の規制情報は  
ここをチェック ▶



## 火振り神事や御田祭など、今も残る地域の伝統

### 国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」

火振り神事は、3月中旬に行われる阿蘇地方の五穀豊穡を祈る神事。農業神が姫神をめとる「御前迎え」の儀式で御神体を迎え、茅束に火をつけて振り回す様子は美しく幻想的です。御田祭は、阿蘇神社に祀られている12の神々が4基の神輿に乗って行列を構成し、神社周辺の青田（稲）の生育具合を見てまわる行事。田実祭は、収穫の時期に稲作の完了を感謝し、最初の収穫米が神前に供えられる行事です。阿蘇の農耕と密接に関わる神事・行事が受け継がれています。



▲御田祭。神々のお供をするのは、全身白装束の女性（宇奈利うなり）など約200人の行列です。  
▼火振り神事では、火の輪が幾重にも重なり合って見える様が壮観。  
▼田実祭では、奉納行事として神事である願の相撲や流鏝馬（やぶさめ）が行われます。

### 阿蘇神社 全国約500社の総本社



阿蘇神社は、古来、火口をご神体とする火山信仰と融合し、肥後国一の宮として広く崇敬をあつめてきました。神武天皇の孫神で阿蘇を開拓した健甕龍命（タケイワタツノミコト）をはじめ、家族神12神を祀っています。神社創立は約2300年前にさかのぼり、現在でも阿蘇家93代の歴史が続いている古社です。

### 日本三大楼門の復旧

2016年の熊本地震で甚大な被害を受けた阿蘇神社。2021年に拝殿などが再建され、残るおもな復旧工事は楼門のみとなり、2023年12月復旧予定です。



### 阿蘇山本堂西蔵殿寺奥之院

山上には、再建された西蔵殿寺山上本堂が立ち、傍らには阿蘇山上神社が隣接。阿蘇山上は神と仏によって守られている地なのです。